

温暖化対策で市など設置

太陽光発電設備が完成

地球温暖化対策として岡山市や県東部の自治体、商工団体などでつくる「備前みどりのまほろば協議会」が設置を進めていた太陽光発電設備のうち、岡山市分6カ所の工事が完了し、16日、建部町吉田の竹枝小学校で点灯式が行われた。

6市カ所 竹枝小で点灯式



竹枝小に設置された太陽光発電設備

市内の設置施設は、同小や在宅福祉サービセンター「ほのぼの荘」(建部町福渡)、郷土玩具展示施設「おもちゃの宿」(建部町



建部上)など旧町時代から環境のまちづくりに取り組んできた建部地区の五カ所と県環境保全事業団(内尾)。竹枝小では、校舎南東側の屋根に約二百平方メートルの太陽光パネルを取り付け。晴天時は最大十九キロワットの発電容量があり、同小の間使用電力の約八割をカバーする。

玄関ホールで行われた点灯式に太陽光発電設備の電源を入れる竹枝小の6年生

は全校児童三十一人をはじめ、関係者ら計約五十人が出席。この日はあいにくの空模様で発電量は四キロワ程度だったが、六年生四人が電源のスイッチを入れると扇風機やCDプレイヤー、電飾が作動し、子どもたちは大喜びしていた。

まほろば協議会(備前市)は環境省の「環境と経済の好循環のまちモデル事業」の指定を受け、岡山、備前、瀬戸内の三市内の学校や福祉施設など十七カ所に太陽光発電設備を設置。協議会傘下の事

業会社「備前グリーンエネルギー」(備前市)が発電量に応じた利用料金を各施設から受け取り、余った電力は中国電力に販売する。(正本和臣)